

本校は、開校以来「世界に生きる日本人」を学校目標とし、一貫して国際社会を生き抜く人材育成に努めてきた。現在、E S Dの視点に立った学習を行うために、国立政策研究所の提示している6つの構成概念①多様性②相互性③有限性④公平性⑤連携性⑥責任性と7つの重視する能力・態度と連携させながら実践を進めている。学校教育目標の具現化を図るため、研究教科である①生活科・社会科の実践を柱に、②総合学習③交流学習④イメージ教育を関連させた教育課程を行っている。

①研究教科である生活科・社会科

1・2年生は、身近な自然と親しみ、環境を大切にする素地を育成している。

3年生は野菜作りから食べ物を大切にする意識を育てた。

4年生はごみの学習から、物をリサイクルし活用する意識を育てた。

5年生は自然とともに生きる。6年生は持続可能な世界を学習し、広い視野に立った考えができる力を育てた。

②総合学習

4年生は、民間企業と連携した「届けよう、服のチカラプロジェクト」を行った。目的の確認を行い、世界の状況を知り、自分たちができることを考え行動した。

5年生は、民間企業と連携し、米作りの学習を生かしたベトナムとの交流学習ができた。日本と外国の文化の違いを知ることができた。海のSDGsに取り組んだ。

③交流学習

6年生は、「アートマイル壁画制作プロジェクト」でアゼルバイジャンとの、交流・協働学習を進めた。他国の子どもたちと壁画制作を行うという目的に向け、子どもの主体性や協働性を育むことを目的としたこの活動に積極的に取り組み、成長した。

④イメージ教育

外国語を「学びのツール」として活用することをねらい、各教科の学習を英語で学ぶイメージ教育を取り入れている。また、クラブ活動においてフランスの食文化にふれる取り組みを行い、異国の食文化を知るよい機会となった。